Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2011.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.48

CONTENTS

- 銀塩写真の魅力・・・ゾーンシステムを巡って（5）
- セルフ・ポートレートの諸相・・・イルマス・コレクションから
- 【表現する】（第 15 回写真展に贈られた早川氏のことば）
- 【御挨拶】（第 15 回写真展での中島代表挨拶文）
- ゾーンシステム研究会第15回写真展全作品
- ゾーンシステム研究会第15回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第15回写真展メディア掲載
- ゾーンシステム研究会第15回写真展作品データ
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

銀塩写真の魅力
ゾーンシステムを巡って（5）

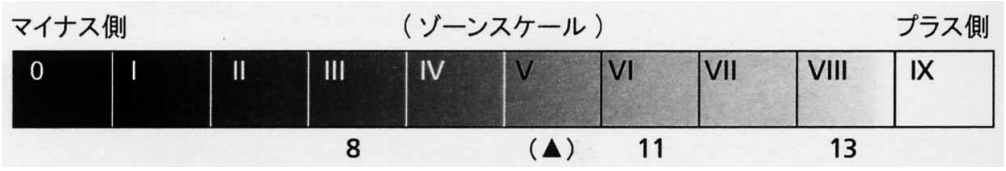
中島秀雄

アダムスによるとビジュアライズは、ファインプリント制作のための必要条件としている。この考え方は特別なことではなく、ただ、日本の写真教育の中では大きく扱われてこなかった。私達は、撮影に露出計を使う。しかし、どの露出計にも数値が並んでいるだけで視覚に訴える表示は他に何もない。この露出計で様々な被写体の輝度から平均値を捉え、露出のキーを決定し撮影を終える。これではビジュアライズ(想定、予知)は難しい。アダムスのゾーンメーターには小さなゾーンスケールが貼られ、被写体とゾーンの関係が分かるようになっている。メーターの露出マーク（▲）のところがゾーンⅤとなり、そこからプラス側にⅣ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、マイナス側にⅣ、Ⅲ、Ⅱ、Ⅰと一絞り差のゾーンが並んでいる。

メーターを被写体に向け、仮につぶしたくない暗部がメーターにEV8と出たとしてそれをゾーンⅢに位置付けると中間部はゾーンⅤ～Ⅵ(EV10-11）となる。次に、必要な明部がEV13と出てそれがゾーンⅧを指していれば、つぶれない黒、飛ばない白、中間部を含め豊かなゾーンのプリントになることがその場で分かる。これがビジュアライズです。そのときに組み合った露出のキー（仮にISO100、絞りf8　1/15秒）で撮影すればバランスのとれたネガとなり、プリントも容易になる。つまり、被写体の重要な暗部はどこか、飛ばしたくない明部はどのくらいか、全体に印画紙の再現域の中にあるのか、もし印画紙の再現域を超えてしまう強い光なら柔らかな光になるまで待つか、そのまま撮影してフイルムの現像時間を減らせば（マイナス現像）よいこともその場で確認できるのです。

ゾーンシステムは、被写体をゾーンとして捉えることでビジュアライズが可能となり、その後の露出、ネガ作り、プリントまで流れを明快にしてくれる理にかなった方法と言えるのです。しかし、ゾーンシステムは写真制作のための一つの技法であり、これを使ってどのような写真を撮るかは1人1人の中にあることはいうまでもありません。

注）上記記事は、2009年6月9日～6月27日開催の「銀塩写真の魅力」展（ギャラリーときの忘れ物）開催時の小冊子／ブログ用に書かれた文からの引用です。



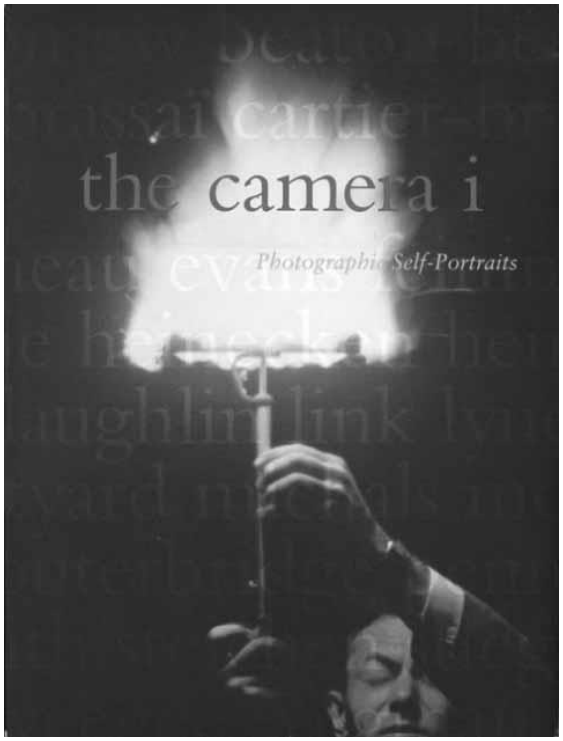
セルフ・ポートレートの諸相
----- イルマス・コレクションから

浜野次郎

昨年の研究会の課題は「人物」。皆さんモデル探しには苦労されたことと思いますが、いつでもどこでも撮影可能な人物が一人だけいます。それは「自分自身」。しかしこの「自分」というものは便利なようでかなり厄介な被写体です。

the camera i

紹介する写真集「the camera i」はイルマス夫妻というコレクターが 1980 年代に収集し、ロサンゼルス州立美術館に寄贈した自写像のコレクションをおさめている。19 世紀から現代に至る写真の潮流が概観できる面白さと、写真家本人の容貌への興味とを同時に満たしてくれるユニークで、味わいのある一冊である。135 点の作品を私の独断で分類してみた。



仮装派

世界初の自写像はフランスのバヤールの「溺死者」(1840) という作品といわれている。(本書には未収録) 政府から支援を得られなかった不運なバヤールは抗議の意味をこめ自殺者に扮しているのだが、写真の黎明期から虚構性が自写像にはつきまとっていることが注目される。

イルマス・コレクションでは 19 世紀の自写像からペルシャ風の衣装のフリス (1857) やインディアンの衣服に身を包むナダール (1863) などが目につく。パリの著名人を鋭いカメラアイで重厚に写し撮ったナダールだが、自写像ではなにか精彩に欠けるところを衣装で補っているような印象だ。

こうした「仮装派」の流れは、赤ん坊に扮するイタリアのタト (1923)、喜劇俳優のようなヒラー (1930) などを経て、B 級映画のヒロインとなる C・シャーマン (1977) へと脈々とつながる。ここまでくると単純な仮装ではなく写真家の主体は社会的記号のなかに溶け込み、映像は多層的なメッセージをはらむ。

ストレート派

「絵画的な構成や演出を排す」ストレート派の代表は A. スティーグリッツ (1890) だ。しかし待てよと思う。階段で寝転がるポーズには本来のスティーグリッツ作品の自然さがない。じっと見ているとどことなく無理をした姿勢に思えてくる。どうも自写像というジャンルはストレート派とマッチしない。

裸体派

裸体派は男女ともに多い。写真家は裸体を撮るのに慣れているから抵抗がないのだろうか。少女のようなケーニガー (1913) は大変美しい。D・ア

ーバス（1945）も裸。P・モリニエ（1966）や化粧をしたR・メープルソープ（1980）は倒錯的だ。男性では連続写真のマイブリッジ（1885）が全裸でつるはしを振り回しているがこれは裸体派の範疇ではなさそうだ。

私は写真家派

わかりやすいのが「私は写真家」派だ。なんらかの形で撮影機材が画面に入っている作品が135点中38点。このなかで圧倒的に格好良いのがM・B・ホワイト（1933）。伸ばした三脚と開いた足の角度が見事に揃っていて気持ちよい。ウイジー（1940）はまるでギャングのボスがスピード・グラフィックを構えているようだ。ウインストン・リンク（1956）の二人は極端に大げさな照明機材を並べ写真家である自らを戯画化している。

歪曲派

顔や体をなんらかの形でゆがめ本来の顔を出さないのが「歪曲派」である。有名な自写像（1930）のおかげでB・アボットは狐のように釣り上がった目のイメージが私のなかで定着されてしまった。巧妙なのはA・ケルテスで、ゆがんだ鏡に映るヌードを撮るシーンを作品としているが、小さく写った自身の顔は少ししか変形していないため、ポートレートとしての機能を損なっていない。B・ナウマン（1970）は光学的に歪曲するのではなく、みずからの手で顔を歪めるという荒技にでている。

影派

「シルエット」のみ示し顔は想像にお任せしますというのが影派。これも歴史が古く、1927年のW・エヴァンスがまったくのシルエットである。フォトグラム風の横顔がT・N・ギダル（1930）。L・フリードランダー（1966）は毛皮を着た女性の背中に影がおちた、それだけの写真だがまぎれもない自写像。本書には収録されていないがA・アダムスも自らの影を撮ったセルフ・ポートレートがある。

偶然派

「セルフ・ポートレートなど撮るつもりはなかったのですが…」と偶然を装う人たちもいる。かなり多いのはガラスや金属に反射してカメラと写真家の顔が出てしまったというパターン。これをさらに裏返したのはしっかり証明写真をとるつもりだったのに顔が切れてしまったA・ウオーホール（1964）。みずからのヌードにレリーズが写り込んでしまったJ・デイター（1981）は裸体派とも私は写真家はとも偶然派ともとれる。

ファインダー派

決して顔をみせないと言われたH・C・ブレッソンのつま先だけ撮った作品（1932）が典型。

悪魔派あるいは堕天使派

「悪魔に魅入られてしまった」自己の表現。J・P・ウィトキン（1984）、最晩年の鬼気迫るメープルソープ（1988）など。案外これが現代におけるストレートな自写像なのかもしれない。

撮る-撮られる関係の複雑化

こうしてみてゆくと古くから写真家は自写像になんとも複雑な趣向をこらしてきたものだ。他者を撮るとき、写真家はそれを美化する、威厳や神秘性を強調する、職業や性格を暗示するなど素直な意図をもって作画することができる。撮る者と撮られる者の緊張関係はむしろ安定した場をつくる。ところが、自らを被写体とした時に「撮る-撮られる関係」が急に曖昧化し、写真家の視

線は行き場を失う。
写真集の題名「the camera i」は「camera eye」との語呂をあわせだが、落語「粗忽長屋」の主人公が死骸を抱きながらつぶやく「この死骸はたしかに俺に違いないが、抱いている俺は一体誰だろう…」にも通ずる悩ましい二重性をさりげなく表現しているように思われる。

さて皆さんは何派ですか。セルフ・ポートレートで人物撮影を学ぶのも良いのではないでしょうか。

書名　the camera i
　　Photographic Self-Portraits
著者　Robert A. Sobieszek
　　Doborah Irmas
出版　Los Angeles County Museum of Art
　　Harry N. Abrams.inc.,Publishers

＊　＊　＊

この原稿を書いた後、同写真集を紹介する飯沢耕太郎氏の評論をみつけました。
「イポリット・バヤールの呪い」(河出ブックス「写真的思考」2009)
セルフ・ポートレートにおける写真家の変身-演技について細密に分析されていますので、あわせて紹介いたします。

【表現する】

写真は極めて日常的な表現手段である。カメラのない家庭は皆無と言っても誇張ではない。デジカメの時代になって、撮影者の能力や感性とは関係なく、素人も「うまい」写真を撮ることが可能になった。技術のおかげである。ただ、問題は「何を、誰に対して、どう、表現するか」である。

「表現する」とは、自分の内面と真っ向から向き合う作業であり、自分はどう生きたいのか、生きようとしているのか、という問いである。そして、作品はその問いに答えを追求するプロセスである。「表現する」人間は、率直に、厳しく自分自身を見つめ、肯定や否定を繰り返しながら、納得のゆく答え、つまり真の表現に到達しなければならない。

「表現する」とはまた、自己と他者もしくは社会や時代との関わりを明らかにするプロセスでもある。肖像写真は写真家と被写体の関係性を写し取り、風景写真は写真家がその風景（社会）の中でどう生きているかを提示し、ドキュメンタリー写真は写真家が生きている時代を記録する。写真は極めて社会的な存在である。そして、私たち人間は社会との関わりナシには生きていけない。

だから、表現する人間は常に、「恥ずかしさ」を覚悟しなければいけない。何故なら、自分の本質と対峙し、他者との関係性を明確にするプロセスを見せる行為は、人前に裸身をさらすのに等しいからだ。しかし、そこを乗り越えた時、表現は自己解放に繋がり、作品は普遍的な存在になる。苦しくて、しかも心地良いプロセス。私が表現者に嫉妬を覚える所以である。

早川与志子 （写真展プロデューサー・明治大学講師）

（ゾーンシステム研究会 15 回写真展に贈られた早川氏のことば）

【御挨拶】

この度、ゾーンシステム研究会は、第 15 回写真展 “光への探求” を開くことになりました。

研究会は、アメリカの写真家 アンセル・アダムス が考案したゾーンシステムを学ぶことを目的にスタートし、今年で 16 年になります。ここまで続けてこられた理由は、会員１人１人ファインプリントの美しさと重要性に気づき、自ら実践してきたことにあるといえます。

否定しようの無いジャーナリズムと印刷メディアの強い日本において、ファインプリントが写真家の最終表現と語ったところで、一般の人たちに理解してもらうのは大変なことです。 ギャラリーの限られた時間と空間の中で、ファインプリントの美しさをどれほど感じ取っていただけるか分かりませんが、少なくとも作者１人１人、撮影からネガ現像、そして最終プリントに至るまでの長いプロセスの楽しみと難しさの入り混じる中で、写真の本質を感じ取り、持続するための新たなエネルギーを受け取っているのです。

私達は、何故アンセルに拘るのでしょう。アンセルは 12 歳のときからピアニストになるための猛練習の日々を送り、その傍ら写真を独学します。その後、アンセルは、ピアニストになる決意をしていたにもかかわらず、結局、写真を選びました。

私は、アンセルが考案したゾーンシステムを導入したことで、写真の中にシンフォニーを感じ取ったに違いないと思っています。

先頃、六本木にある富士フイルム・フォトサロンにてアンセルのポートフォリオ展が開かれました。1963 年に創られたポートフォリオⅣは、全部で 260 部つくり 15 点の作品からなり、合計で 3900 枚のオリジナルファインプリントを創ったことになります。

私達は、アンセルのこのファインプリントに対する情熱を共有し、持続する写真活動の支えとしていることも事実です。

研究会は、今年、ポートフォリオを作ることになっています。 私達のこれまでの写真活動の証しとして、また、新たなテクノロジーの発達によって写真が単なる情報としてしか扱われなくなってきている現在、銀塩プリントという「物」として残しておきたいという思いを強くしているからです。

カメラ、レンズ、フィルム、プリントの全てに、私達は日々、面白さを感じつつ、同時に難しさも感じています。しかし、それぞれのプロセスの中にわずかでも創造性の発芽を感じ取ることができれば、写真活動を続けることは難しくないと思っています。

ゾーンシステム研究会代表　 中島秀雄

（ゾーンシステム研究会 15 回写真展での中島代表挨拶文）

ゾーンシステム研究会第15回写真展［光への探求］全作品

アイデムフォトギャラリー「シリウス」［2010年10月28日（木）～11月3日（水）］

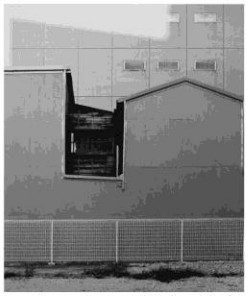
Salt Maker　　中島　秀雄

Gravity Stone　　中島　秀雄

引き潮　　中島　秀雄

Kids　　松本　ひさ子

Shadow　　松本　ひさ子



ハイヌーン　　鈴木　武志

人形使い（清和文楽）　酒巻 澄江

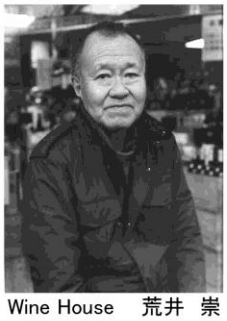
A嬢の肖像　　酒巻 澄江

タイ美人　　岡崎　克之

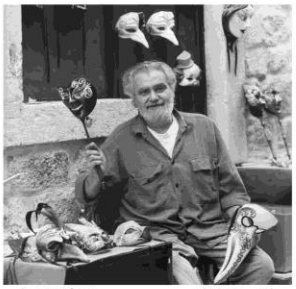
タイサンボク　　北野　龍一

Emily and her family　北野 龍一

生きる木　　岡崎　克之


Wine House　荒井　崇

Green House　荒井　崇

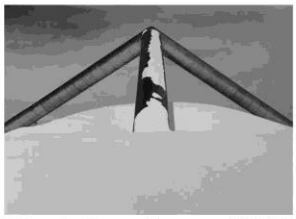

仮面売り　橘田　功

寄せる波　橘田　功

white wave（白波）古谷津 純一

Takumi (拓海), 2010 古谷津 純一

Teacher　畑　文夫


Object in Snow, Sapporo 畑 文夫

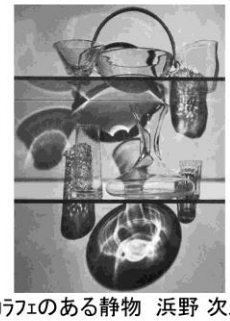
沖縄 首里城　岸　芳明

午後の教会　藤田　昇

雪原の田　藤田　昇

双竜の滝　岸　芳明

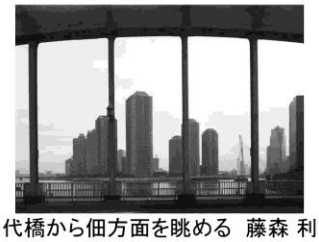
二色の球葱　浜野 次郎



ｶﾗﾌｪのある静物　浜野 次郎

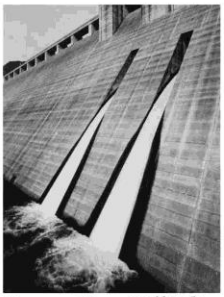
雪景　越後　久雄

ダム湖の夏　藤森　利昭



永代橋から佃方面を眺める　藤森 利昭

海景　越後　久雄



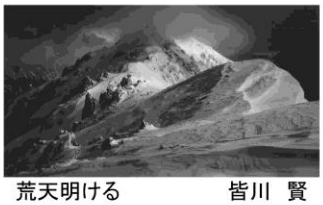
Koyama Dam 小菅 秀一

Erosion　小菅　秀一

雲湧く　川北　弘

水烟る（みずけむる）　金子 正道

彫刻家S氏　金子 正道



荒天明ける　皆川　賢

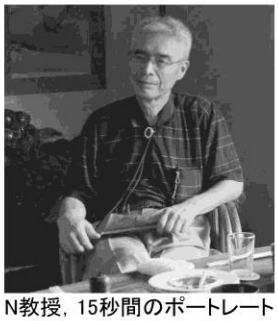
ROOTS　　葛城　忠彦

ﾚｲﾝｺｰﾄのｽｲｽ衛兵　葛城 忠彦

冬野　　加藤　貞夫

Harvest 1　　蒲　ひろ子

Harvest 2　　蒲　ひろ子



N教授，15秒間のポートレート
倉又　茂

清流の瀑布　　石井　政吉

ｴﾄﾞﾜｰﾄﾞ･ﾚﾋﾞﾝｿﾝ氏 石井 政吉

ゾーンシステム研究会第15回写真展スナップ

展覧会会場

展覧会会場

パーティ（中央:早川氏）

レクチャー

受付

展覧会会場全景

ゾーンシステム研究会第15回写真展メディア掲載

「第15回展　光への探求」
ゾーンシステム研究会

10月28日～11月3日　東京（新宿御苑）：アイデムフォトギャラリー「シリウス」　03-3350-1211

ひとこと■「研究会では、銀塩写真にこだわり、ゾーンシステムによるモノクロのオリジナルファインプリントを追求しています。国内外の自然や都市風景、生物、人物などをモチーフに40点を展示します」

中島秀雄

アサヒカメラ（2010 年 11 月号掲載）

写真展案内

アマリエンボー　© 松本ひさ子

第 15 回ゾーンシステム研究会写真展「光への探求 (In Pursuit of The Light)」10 月 28 日～ 11 月 3 日 / アイデムフォトギャラリー［シリウス］

カメラ界&スタジオエキスプレス
（2010 年 10 月号掲載）

◆ゾーンシステム研究会「光への探求」　28日～11月3日、新宿御苑前駅・アイデムフォトギャラリー「シリウス」。メンバー約20人による、銀塩写真にこだわったモノクロ写真＝写真、荒井崇さん撮影＝約40点を展示。日曜休。03・3350・1211。

読売新聞夕刊（2010 年 10 月 26 日掲載）

ゾーンシステム研究会 第15回写真展 ファインプリント～光への探求　　作品データ

	タイトル	作者	撮影地		撮影年月	フィルム	フォーマット
1	white wave(白波)	古谷津 純一	千葉県	銚子市	2010年6月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10
2	引き潮	中島 秀雄	千葉県	鴨川市	2009年11月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x6
3	寄せる波	橘田　功	茨城県	高萩市	2010年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
4	海景	越後 久雄	宮城県	仙台市	2010年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
5	レインコートのスイス衛兵	葛城 忠彦	ヴァチカン		2010年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
6	Teacher	畑　文夫	東京都	三鷹市	2010年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
7	エドワード･レビンソン氏	石井 政吉	千葉県	千倉市	2009年11月	FUJI ACROS 100	4x5
8	Erosion	小菅 秀一	茨城県	高萩市	2010年8月	KODAK TMX (T-MAX 100)	4x5
9	清流の瀑布	石井 政吉	千葉県	養老渓谷	2010年2月	FUJI ACROS 100	4x5
10	双竜の滝	岸　芳明	青森県	奥入瀬渓谷	2010年5月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x7
11	雲湧く	川北 弘	山梨県	清里高原	2010年8月	KODAK 320TXP (TRI-X)	6x6
12	Wine House	荒井　崇	神奈川県	鎌倉市	2010年2月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
13	N教授, 15秒間のポートレート	倉又　茂	東京都	新宿区	2010年6月	FUJI ACROS 100	4x5
14	彫刻家S氏	金子 正道	彫刻家アトリエ		2010年6月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
15	冬野	加藤 貞雄				KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
16	雪景	越後 久雄	宮城県	蔵王町	2010年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
17	沖縄　首里城	岸　芳明	沖縄県	那覇市	2009年10月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x7
18	Shadow	松本 ひさ子	デンマーク	コペンハーゲン	2010年4月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
19	午後の教会	藤田　昇	栃木県	那須高原	2010年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x7
20	Green House	荒井　崇	栃木県	塩原町	1997年10月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
21	Gravity Stone	中島 秀雄	静岡県	伊豆	2010年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
22	Koyama Dam	小菅 秀一	茨城県	高萩市	2010年8月	ILFORD DELTA100	8x10
23	永代橋から佃方面を眺める	藤森 利昭	東京都	中央区	2003年3月	FUJI ACROS 100	4x5
24	ハイヌーン	鈴木 武志	東京都	中央区	2010年9月	FUJI NEOPAN 400	6x6
25	Salt Maker	中島 秀雄	新潟県		2010年2月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x6
26	人形使い(清和文楽)	酒巻 澄江	熊本県		2010年5月	FUJI ACROS 100	4x5
27	Kids	松本 ひさ子	デンマーク	コペンハーゲン	2010年4月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
28	Emily and her family	北野 龍一	長野県	白馬町	2009年12月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
29	タイサンボク	北野 龍一	東京都	新宿御苑	2010年6月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
30	Harvest 1	蒲 ひろ子	千葉県	柏市	2010年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
31	Harvest 2	蒲 ひろ子	千葉県	柏市	2010年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
32	ROOTS	葛城 忠彦	栃木県	日光市	2009年11月	FUJI ACROS 100	4x5
33	生きる木	岡崎 克之	沖縄県	西表島	2010年3月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
34	A嬢の肖像	酒巻 澄江	東京都	小石川植物園	2010年4月	FUJI ACROS 100	4x5
35	タイ美人	岡崎 克之	タイ	ロイヤルガーデン	2009年2月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
36	仮面売り	橘田　功	クロアチア	ドブロヴニク	2005年10月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
37	カラフェのある静物	浜野 次郎	自宅		2010年8月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
38	二色の球葱	浜野 次郎	自宅		2010年9月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
39	Takumi (拓海), 2010	古谷津 純一	千葉県	野田市	2010年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10
40	水烟る(みずけむる)	金子 正道	富山県	黒部第四ダム	2010年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10
41	ダム湖の夏	藤森 利昭	三重県	津市	2008年8月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
42	Object in Snow, Sapporo	畑　文夫	北海道	札幌市	2005年2月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x4.5
43	荒天明ける	皆川 賢	長野県	燕岳	1967年5月	KODAK PANATOMIC-X	4x5
44	雪原の田	藤田　昇	新潟県	柏崎市	2010年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5

レンズ	絞り	スピード	キーゾーン	シャドー	ハイライト	印画紙
150mm	f32 2/3	1秒	白波(Ⅷ)	岩の黒部分 (Ⅲ)	白波(Ⅷ)	Rembrant V G2
80mm	f22	1/4秒	波(Ⅶ-Ⅷ)	岩(Ⅱ)	波(Ⅶ-Ⅷ)	Rembrant V G2
210mm	f45	1/30秒	波(Ⅴ)	岩(Ⅲ)	波頭(Ⅷ)	SEAGUL VC-FBⅡ
80mm	f16-22	1/125秒	柵(Ⅱ-Ⅲ)	柵(Ⅱ-Ⅲ)	波(Ⅶ)	Rembrant V G2
80mm	f16	1/30秒	レインコート(Ⅳ)	帽子 (Ⅲ)	建物(Ⅶ)	SEAGUL VC-FBⅡ
210mm	f22-32	1/8秒	顔のハイライト部 (Ⅵ)	コートの黒地 (Ⅲ)	顔のハイライト部 (Ⅵ)	Rembrant V G2
150mm	f22 1/2	1秒	顔 (Ⅴ)	背景の右側の壁(Ⅲ)	背景の窓ガラス(Ⅷ)	Rembrant V G2
90mm	f45	1/2秒	砂浜(Ⅴ)	岩の陰の部分(Ⅲ)	空(Ⅶ)	Rembrant V G2
210mm	f64	15秒	右下の光る岩(Ⅵ)	岩の陰(Ⅲ)	水(Ⅷ)	Rembrant V G2
75mm	f22	1/15秒	―	岩(Ⅲ)	滝の水(Ⅷ)	Rembrant V G2
38mm	f8	1/125秒	手前の草原(Ⅴ)	中段の森林(Ⅱ)	中央の雲(Ⅷ)	SEAGUL VC-FBⅡ
150mm	f11	1/4秒	顔 (Ⅵ)	服(Ⅲ)	照明 (Ⅷ)	Rembrant V G2
120mm	f45	15秒	顔 (Ⅴ)	左置物 (Ⅲ)	右(Ⅶ)	ILFORD IV
90mm	f22	1/8秒	顔 (Ⅴ-Ⅵ)	後ろの棚(Ⅳ)	ダクト(Ⅶ-Ⅷ)	SEAGUL GF Ⅱ
50mm	f22	1/30秒	木立の明るいグレー(Ⅴ)	―	―	Rembrant V G2
210mm	f45	1/60秒	雪(Ⅶ-Ⅷ)	暗部(Ⅲ)	雪(Ⅶ-Ⅷ)	Rembrant V G2
75mm	f22	1/60秒	―	屋根下(Ⅱ)	雲(Ⅷ)	Rembrant V G2
80mm	f16 1/2	1/60秒	窓の壁 (Ⅴ)	樋の縁 (Ⅱ)	窓枠の下 (Ⅶ)	Rembrant V G2
80mm	f22	1/30秒	教会上部の石壁(Ⅴ-Ⅵ)	人物の帽子(Ⅲ)	空(Ⅷ)	Rembrant V G2
150mm	f45	1/4秒	外壁の白い線(Ⅶ)	林 (Ⅳ)	雲 (Ⅷ)	Rembrant V G2
125mm	f45 2/3	1秒	石(Ⅴ-Ⅵ)	岩陰(Ⅱ)	白岩(Ⅶ-Ⅷ)	Rembrant V G2
165mm	f64	1/4秒	コンクリート部(Ⅵ)	水面(Ⅲ)	放流面(Ⅷ-Ⅸ)	Rembrant V G2
120mm	f22 1/3	1/2秒	中央のビル(Ⅴ)	橋の影(Ⅲ)	空の明部(Ⅷ)	ADOX MCC110
150mm	f22	1/4秒	鋼板壁(Ⅵ)	板壁(Ⅲ)	タイル壁(Ⅷ)	Rembrant V G2
50mm	f8	1/8秒	ジャケット(Ⅵ)	釜(Ⅱ-Ⅲ)	蒸気(Ⅵ-Ⅷ)	Rembrant V G2
180mm	f22	1/8秒	人形(Ⅷ)	人形使いの着物(Ⅰ-Ⅱ)	人形の顔と足(Ⅷ)	Rembrant V G2
80mm	f11 1/2	1/60秒	煉瓦の壁 (Ⅳ)	男の子の黒のジャンパー(Ⅳ)	女の子のスカート(Ⅷ)	Rembrant V G2
180mm	f32 1/3	1/2秒	顔(Ⅵ-Ⅶ)	セーター (Ⅲ)	T-シャツ(Ⅷ)	SEAGUL GF Ⅱ
180mm	f45	1/2秒	蕊(Ⅵ)	右下の暗部 (Ⅱ)	花びら(Ⅷ)	SEAGUL GF Ⅱ
80mm	f22	1/15秒	葉(Ⅴ)	日陰部分(Ⅱ)	カボチャ(Ⅵ-Ⅶ)	ILFORD FB
80mm	f22	1/15秒	葉(Ⅴ)	日陰部分(Ⅱ)	カボチャ(Ⅵ-Ⅶ)	ILFORD FB
150mm	f45	1/2秒	根(Ⅶ)	根の下(Ⅲ)	空(Ⅷ)	SEAGUL VC-FBⅡ
150mm	f32	1/8秒	木(Ⅵ)	地面(Ⅵ)	空(Ⅷ)	Rembrant V G2
180mm	f16	1/2秒	顔と首(Ⅴ-Ⅵ)	髪(Ⅰ-Ⅱ)	頬(Ⅵ-Ⅶ)	Rembrant V G2
150mm	f32	1/30秒	顔(Ⅴ)	洋服(Ⅲ)	背景(Ⅷ)	Rembrant V G2
80mm	f11	1/125秒	人物額(Ⅴ)	右手の仮面(Ⅱ)	アンダーシャツ(Ⅶ)	ILFORD MGFB warmtone
180mm	f45	30秒	ガラスのシャドー(Ⅲ-Ⅴ)	ガラスのシャドー(Ⅲ-Ⅴ)	背景(Ⅵ)	SEAGUL VC-FBⅡ
210mm	f45	18秒	白玉葱の中間トーン(Ⅳ)	紫玉葱のシャドー部(Ⅱ)	白玉葱の中間トーン(Ⅳ)	SEAGUL VC-FBⅡ
360mm	f45 1/3	1/4秒	顔 (Ⅵ-Ⅶ)	ジャケット (Ⅲ)	空(Ⅷ)	SEAGUL VC-FB Ⅱ
450mm	f22	1/60秒	水(Ⅶ)	木(Ⅳ-Ⅴ)	水(Ⅶ)	SEAGUL VC-FB Ⅱ
120mm	f22	1/8秒	湖底(Ⅴ)	森の影(Ⅲ)	空(Ⅷ)	ADOX MCC110
80mm	―	―	前景の雪(Ⅶ-Ⅷ)	金属の黒色部(Ⅲ)	前景の雪(Ⅶ-Ⅷ)	Rembrant V G2
90mm	f45	1秒	―	―	―	SEAGUL VC-FB Ⅱ
150mm	f64	1/4秒	中央部(Ⅵ)	日陰(Ⅲ)	日照部分(Ⅷ)	SEAGUL VC-FB Ⅱ

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会定例会日誌

2010年10月9日(土)

文京区シビックセンター会議室

・出席者：中島代表、荒井、川北、北野、小菅、金子、岡崎、浜野、倉又、酒巻、鈴木武、岸、蒲、葛城、橘田、古谷津、石井

・作品持参者：全員（見学者除く）

・見学者：雨田氏

【写真展関連】

(1) パーティー

- 飲み物はワイン・ウーロン茶のみとする。少なめに用意し、足りない場合は近所へ買出し。

(2) 額装

- 額装日は 10/16（土）9:00～
- 万一参加できない方は、作品とフレームを事前に中島代表に送ってもらう。
  又は、自身で額装し、搬入当日(10/27 15:00)現地に持ち込んでもらう。

(3) 撮影データ＆タイトル

- 未回答の方に本日聞いて記入した。(古谷津氏)
- 出席してない方、決まってない方は後日連絡してもらう。

(4) 受付当番

・以下時間に分けて決めた。
　＊前半：10:00～14:00、後半：14:00～18:00

(4) サイン用筆記用具

- 従来推奨していたライトインプレッションマーキングペンは入手不能となった。
  よって代替として以下鉛筆を使用することにした。スタビロ　ALL 8046

（注）大きな画材店に有り。世界堂とアマゾンにあった。伊東屋には無し。

（注）書いた後、擦ると汚れるので注意。記入は必ずフラットニング後のこと。

（注）使いにくいが、マーキングペンより長期保存性が良く消えにくい。

（注）水性の良いマーカーを畑さんが知っているとのことで、来年からはそれも採用を検討する。

(5)スポッティングインク

以下を推奨。

- マーシャルレタッチングカラー

（色：黒（ナチュラルブラック））（成分は染料）

・価格：2650 円

・月島の銀一で売っている。(03-5548-5131)

・多数の色があるが、通常、黒のみで十分。

- ペペオ

・輸入すれば入手可能。(興味のある方は橘田さんへ問い合わせ)

(6) 新聞掲載

・10/26 読売新聞夕刊への写真展案内掲載決定。

(7) DM

- DM は、出来が悪かったため２回刷り直した。(予定より費用がかかってしまったが了解していただきたい。)
- 本日配った。欠席者には小菅さんから数十枚送っていただく。
- 本日配った DM にはデモの記載が無いので、各自自分で記入してから発送のこと。

【ポートフォリオ】

- 箱は近日中に発注する。(この手のメーカーは、頻繁にモデルチェンジしてしまう傾向があるため)
- 写真展での展示は予約受付をやめ、参考展示とする。ただし、興味のある方には完成したら優先的に連絡。
- 平木先生、中島代表のあいさつ文を中性の厚紙で作成し、作品タイトルとデータの紙を挟む形態とする。(今回の写真展用は、とりあえずタイトルのみ記載)
- 作品を無酸性封筒に入れる案を検討中。
  ただし、今回の写真展用は透明袋(指紋付着防止のため)
- 写真展の際は、ポートフォリオ紹介パネルを展示。

2010年11月13日(土)

文京区シビックセンター会議室

・出席者:中島代表、北野、松本、浜野、荒井、酒巻、倉又、越後、岡崎、石井、金子、橘田、川北、蒲氏、皆川

・作品持参者:無し

【写真展関連】

- 写真展費用を立て替えた方は、領収書を酒巻さんに至急提出すること。
- 研究会保管用プリントを提出してない方は、来年 2 月例会までに荒井氏に提出のこと。(サインを必ず入れること)
- 来年のテーマは「静物」

・今回同様、原則として　テーマ作品１点、自由作品１点を目指す。

・翌年のテーマは早めに決めて欲しいとの要望が多く出た。
(写真展終了後ではなく、例えば７月頃)

- 来年の会場候補:

・コニカプラザ (審査厳しい)

・ギャラリーコスモス(グループ展は難色？)

・ポートレートギャラリー(スポットライト無し)

その他(早川さんからも情報を入手する。)

- 早川与志子氏より、今後地方で開催したらどうかという提案があった。
  展示方法を含めて企画しても良いとのこと。
  なるべく負担のない方法を考えていただけるという。
- 中島代表が聞いた今回写真展の評価

・クオリティーが昨年より上がった

・人物写真が良かった。

・いつも研究会の写真展を見るとホッとする。

・真正面から向き合っているのが良い。

・ポートフォリオを見て、「デジタルをギャフンといわせるね」と言っていた。

・キャビネプリントを見て、今までプリントを買ったことの無い人が買っていた。
(プリントを買うきっかけになったようだ。)

・ごみ、ほこり、マットカットに不備がある。

- 例会にて全員に感想を述べていただいた。

・プリントサイズは大きいほうが良い。

・照明がやや明るすぎ。

・作品の間隔が狭かった。(パーテーションを増やせばよかったかもしれない。)

・技術マニュアルを用意したほうが良い。

・ポートフォリオ展示・キャビネ販売に気づかない客が居た。

・キャビネはファイルではなく、壁に展示し、販売を受付で行ったほうが良い。

・キャビネ販売は、盗難防止、販売作品チェック漏れ防止対策が必要。

（今回は何とかうまく行ったが、大変危険）
・作品キャプションに作者のコメントがあったほうが良い。
・作品のコメントは無いままのほうが良い。（写真が説明的になってしまう。）
・モノクロは、カラーと違って見ようという強い意志が必要。
・今回写真展をきっかけに、モノクロに興味を持った人が多かった。
・人物がテーマであることの記載がどこにも無かった。
・人物がテーマだったためバリエーションが豊富になり好評だった。
（人物を分けて展示しないで混在させたのも良かった。）
・会員の会場マナーをもう少し良くすべき。
（会場での携帯使用・話す声が大きい等）
・ライトの色ばらつき大きい（黄色いライトもあった）
・DM の「光への探求」文字ロゴ古めかしい。また、レイアウトももう少し工夫があったほうが良い。（今回のレイアウトは誤解を招く）
・データシートに作品のコメントがあったほうが良い。
・印画紙サイズの表記がインチサイズであるが、一般の方にはわかりにくい。
・天気が悪かったのが残念。
・シリウスが制作した看板の写真画質がひどかった。次回からは自分達で制作したほうが良いかもしれない。

【ポートフォリオ関連】

● 3 月例会までに 33 枚プリントを完成。自信の無い方は、早めに中島代表のチェックを受けて焼き直し等行うこと。
● 4 月例会にて箱入れ。完成。
● ポートフォリオ費用前金として 10000 円を徴収。（完成後清算）
来年 1 月に、会費といっしょに松本さんへ支払うこと。
● 箱は発注済（12 月末入荷予定）
● 退会した会員全員への参加募集を行う。
（今回募集したのは、退会会員中、参加できそうな人のみであり、それでは不公平）
● 作品をポリプロピレン透明袋へ入れる装丁はやめて、厚み 0.1mm 無酸性紙で挟む方法に変更。（透明袋は体裁が悪いため）
● ポートフォリオの名称案「Premelian Print」（造語）は、アダムスの「Permelian Print」（これも造語）と綴りが近いのでスペルミスと勘違いされないかとの心配有り。今後再検討。
● ポートフォリオ寄贈先案：工芸大/近代美術館/ニューヨークのインターナショナル・センター・オブ・フォトグラフィー/ヨセミテのアダムスギャラリー/日大

【その他】

● 12 月撮影会
場所の候補は
・日光 （加藤氏が案内）
・八ヶ岳又は乗鞍（赤羽氏が案内。蕎麦打ちイベント含む）
＊実行できるかどうか微妙なところ。中島代表が検討中。

【情報】

● 12 月にエドワード・スタイケン写真展が開催される。（ときの忘れもの）
＊エドワード・スタイケンは、プリント史上最高の価格（3 億円）が付いた作家。

● ジョック・スタージス（ヌーディスト村撮影で有名な写真家）が銀塩モノクロプリント価格を倍にした。（使っている感材販売中止のため）

2010年12月11日(土)

文京区シビックセンター会議室

・出席者：中島先生、鶴見、畑、古谷津、金子、橘田、藤森、北野、松本、酒巻、浜野、葛城、倉又、越後、岡崎、石井、皆川

・作品持参者：鶴見、畑、古谷津、金子、橘田、藤森、北野

・見学者：張寰宇 氏

● 田中英司氏を偲んで、皆さんが想い出を語った。

● **ギャラリー見学会開催予定（2ヶ所）**

・１２月１９日（日）１３時

・地下鉄日比谷線　広尾駅３番出口付近　集合

(1)アートフォトマーケット

・場所：インスタイル・フォトグラフィー・センター（東京都港区南麻布 5-2-9 B1F）

＊若者達の、現在を表現した写真に触れます。

(2) エドワード・スタイケン写真展

・場所：ギャラリーときの忘れもの

● **冬の撮影会（一泊）**

・１月２９～３０日又は２月１９～２０日

猪苗代湖周辺、又は日光の雪景色

１月例会で参加者を募る。

● **総会とレクチャー**

・２月１２日（土）予定

・レクチャーは会員以外にも公開予定。

・積極的に参加していただきたい。

● **来年のテーマ：「静物」**

・夏以前に撮影会、例会を利用したレクチャーなどを予定。

（題材の選び方、ライティング、背景、レンズの選択、ｅｔｃ）

● **ポートフォリオについて**

・各自の準備作業は進めていただきたい。

・寄贈先にはアジアの団体も加え、交流を図りたい。

● **古谷津氏より本の紹介**

・Steve Anchell 著

・The Darkroom Cookbook (3rd. Ed.)

アーカイバル処理などに新しい知見が盛り込まれているので、これから研究する必要がありそうだとのこと。

2011年1月8日(土)

文京区シビックセンター会議室

・出席者： 中島代表、鶴見※、臼井※、古谷津※、葛城※、北野※、橘田※、岡崎※、畑※

金子、蒲、川北、倉又、酒巻、鈴木武、藤田、松本、皆川

・作品持参者： 鶴見、臼井、古谷津、葛城、北野、橘田、岡崎、畑

・見学者：穴澤 氏（入会）

● **ポートフォリオの制作**

参加者は３月の例会までに作品を仕上げること。

● **冬の撮影会**

２月１９～２０日　一泊

・猪苗代湖畔の「しぶき氷」や水門、天鏡閣（洋館）などを予定

（詳細は今後決定）

● **総会とレクチャー**

・2 月 12 日（土）　・総会 13 時～

・レクチャー15 時～

レクチャーは東京写真美術館の学芸員

多数の参加をお願いする。レクチャーは会員以外の参加も呼びかけてほしい。
また、学芸員への質問も用意してほしい。

● **2011 年写真展**

・今年の会場は総会までに決定したい。
（シリウス、富士フォトサロンは不可。各自の情報があれば提供を願う。）

● **会員の個展など**

・松本ひさ子写真展　「シェムリアップの風」
ギャラリーコスモス　2 月 8～13 日
http://www.gallerycosmos.com/newpage1.html
アサヒカメラ　2 月号にも掲載されます

・「日本リンホフクラブ写真展」酒巻さん出展
ポートレートギャラリー　1 月 20～26 日
http://www.sha-bunkyo.or.jp/gallery/port.html

● **ゾーンシステムワークショップ**

・４月から６月にかけての開催を計画中
（隔週土曜日、計６回程度）

● **その他情報**

・コダック T-MAX の 8×10 が製造中止？
公式発表はないが、店頭からは姿を消している。

・水道橋付近のレストランで写真の展示を行えそうなので調査したい。

● **今年の目標（発言順）**

・畑・・・例会には毎月プリント４点を持参する。

・倉又・・・例会の２回に１回はプリントを持参する。

・葛城・・・年間テーマを決めて撮影する。

・岡崎・・・新しいテーマに取り組む。

・皆川・・・８×１０で作品を作る。

・金子・・・テーマを決めて撮る。

・古谷津・・・個展を開く、速写性を上げる。

・橘田・・・８×１０で１００枚撮る、未プリントのネガから作品を作る、例会には必ず作品を持参する。

・松本・・・個展が終わってから４×５を再スタートする。

・鈴木武・・・静物を撮る、スポッティングを楽に行う方法を伝授する。

・北野・・・撮影から処理までを丁寧に行うよう心がける。

・穴澤・・・今までのやり方をリセットして勉強したい。

・藤田・・・８×１０に挑戦する。

・臼井・・・4×5 をスタートし、１～２年内に個展を目指す。

・川北・・・残る作品を作りたい。

・酒巻・・・目標を決め、ゾーンシステムの原点に戻ってプリントの美しさを追及する。

・蒲・・・・植物をテーマに、売れる作品を作る。

・鶴見・・・ゾーンシステムを習得する。

・中島代表・・・空撮を始める、プリントワークショップを立ち上げる。

Information

【訃報】

会員の田中英司氏は2010年12月8日に逝去されました。(享年６７歳)

田中さんは、すばらしい作品を発表されると共に、写真展準備のために毎年アトリエを提供してくださるなど、研究会に対して大変ご尽力をいただいてきました。

謹んでお悔やみを申し上げます。

【トピックス】

[暗室ワーク]

研究会恒例の暗室ワークが行われました。

・日時：2010年9月26日（日）

・場所：工芸大中野キャンパス暗室

・参加者：中島代表、川北、越後、皆川、葛城、浜野、蒲、倉又、藤田、臼井、北野

・工芸大の暗室がリニューアルされ、今回より使用させていただいた。個室型暗室で、大変集中しやすく、有意義なワークショップとなりました。

[畑文夫さん写真展「Vanishing Point」開催]

2010年11月5日～14日、研究会事務局畑文夫さんの写真展が開催されました。

作者コメント

高校生の頃から撮り始めた写真の中から、SL、都電や軽便鉄道など、今では消えてしまった鉄道を主題に、６０年代末から９０年代にかけて撮影したものを展示しました。

自分にとって、その後も継続している写真という趣味の原点といえる対象です。

Information

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

1．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。

2．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
- ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。
（スキャナーでパソコンへ入力します。）
- パソコンの電子メール
- ウィンドウズの Word2000-2003
- text ファイル
（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

3．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］荒井　崇

［表紙の作品］
- 作者：浜野次郎
- タイトル：二色の球葱
- フィルム：KODAK 320TXP (TRI-X) 4x5
- レンズ：210mm
- 絞り：f45
- シャッター：18 秒
- キーゾーン：白玉葱の中間トーン（Ⅳ）
- シャドウ：紫玉葱のシャドー部（Ⅱ）
- ハイライト：白玉葱の中間トーン（Ⅳ）